

お茶の水女子大学「プロジェクトマネジメント特論」

新しい価値を創る ～これからのイノベーションの興し方～



講師 江村 克己

福島国際研究教育機構 理事

国立研究開発法人 科学技術振興機構 (JST) AIPネットワークラボ長

元 日本電気株式会社 取締役 執行役員常務 兼 CTO

2023年5月17日（水）にお茶の水女子大学のプロジェクトマネジメント特論において、「新しい価値を創る ～これからのイノベーションの興し方～」と題し、約60名の学生を対象に茗荷谷キャンパスで講義を行った。講義は、日本の置かれている現状への理解を深め、今後自らが進むべき道について考える機会としてもらうことを意識して進めた。

講義で伝えたこと（１）：新しい価値創造が求められる時代に

技術の進歩が一層加速する中で、日本の競争力があらゆる面で低下している。気候変動や地政学的な問題が顕在化し、世の中の不確実性も急速に増大している。資源に乏しい日本が今後、世界の中でしっかりしたポジションを確保していくためには、イノベーションにより新しい社会価値創造を行い、世界に先駆けて豊かな社会を創っていくことが不可欠である。

そのためには、ビジョンをしっかり持って創るべき将来社会を描くとともに解くべき課題を明確にして取り組むことが求められる。Age of Entanglement（絡み合いの時代）とも言われており、技術開発のみならずデザインやアート、人文社会的な視点を取り入れ、市民とも連携して社会受容性を高める取り組みを進めることが肝要になっている。

講義で伝えたこと（２）：将来を担う人材への期待

一人ひとりが個性を活かし、自らを磨き続けることがまずは大切である。ダイバーシティの重要性を理解し、多様な価値観を受け入れ協力しあうことで新たなイノベーションが生まれる。日本の文化を理解した上で、グローバルな活動に積極的にチャレンジして欲しい。人生100年時代、学び続けることで人間力を磨き、多くの皆さんが社会の中心で活躍することを期待する。

講義を終えて

研究開発力、ダイバーシティ、若者の意識等について、データを使って話をしたことで、現状に安住しては行かないということを強く意識してもらうことができたと思う。自分の将来を見据え、自らがチャレンジしていくというコメントが多数あり、今後の成長と活躍が大いに期待される。